

TOSHIBA

東芝調光操作卓

TOLSTAR III

*PF*ユニット

形名 *TRDM3-20J-2P*

TRDM3-30J-2P

TRDM3-20J-3P

TRDM3-30J-3P

取扱説明書

この度は東芝ライテック製品をお買い求めいただき誠にありがとうございます。
安全にご愛用いただくために、ご使用前には必ず取扱説明書をお読みください。

東芝ライテック株式会社

目 次

ご使用の前に -----	1
付属品を確認する -----	2
安全上のご注意 -----	4
P F ユニットの使い方 -----	9
接続ケーブルをつなぐ -----	10
各部の名称と使い方 -----	12
P F ユニットの使い方 -----	15
TOLSTARⅢの【フェーダ切替】について -----	15
1段切替について -----	16
フェーダスイッチ切替について -----	16
2段P F ユニットでサブマスタを使用する -----	16
3段P F ユニットでプリセットフェーダの灯りを出す -----	17
フェーダ切替とチャンネル割り付け -----	18
点検、仕様について -----	21
故障かなと思ったら -----	22
日常点検 -----	24
概略仕様 -----	25

ご使用の前に

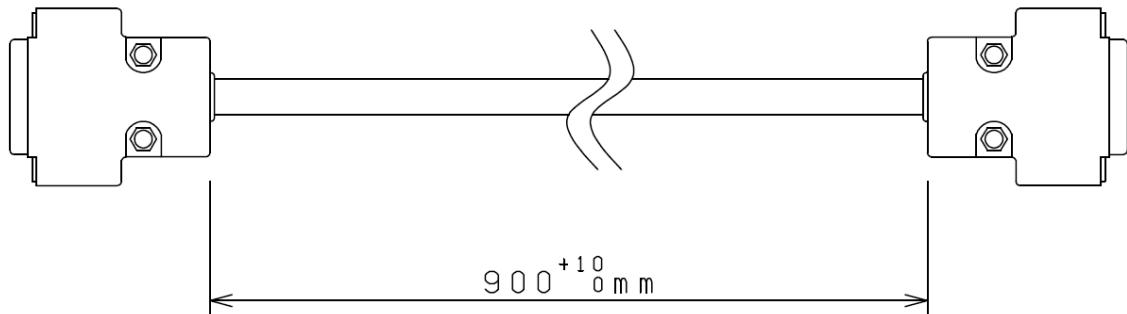
付属品を確認する

本製品には以下の付属品があります。ご確認ください。

接続ケーブル (90 cm) (1本)

PFユニット 20×2 (形式: TRDM3-20J-2P)

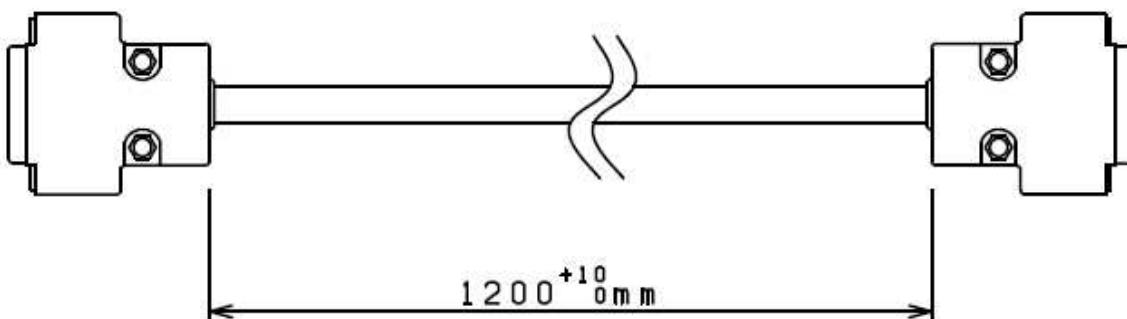
PFユニット 30×2 (形式: TRDM3-30J-2P)



接続ケーブル (120 cm) (1本)

PFユニット 20×3 (形式: TRDM3-20J-3P)

PFユニット 30×3 (形式: TRDM3-30J-3P)



仕込記入板

PFユニット 20×2 (形式: TRDM3-20J-2P) プリセット用4枚

プリセット用

PFユニット 30×2 (形式: TRDM3-30J-2P) プリセット用6枚

プリセット用

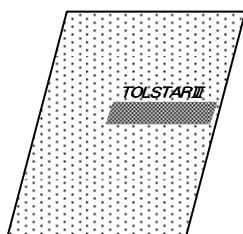
PFユニット 20×3 (形式: TRDM3-20J-3P) プリセット用6枚

プリセット用

PFユニット 30×3 (形式: TRDM3-30J-3P) プリセット用9枚

プリセット用

取扱説明書 (本書) (1部)



安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる方や他の方への危害、財産への損害を未然に防止するため必ずお守りしていただきたいことを、次のように説明しています。

表示内容の確認なしで、誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

警告表示内容の説明

取扱説明書に警告表示をしています。

装置の使用前に警告内容を必ず確認の上、安全にご使用ください。

シグナル用語の意味



警告 この表示の欄は、「使用者が取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定される」また、「軽傷または物的損害のみの発生が想定される」内容です。



注意 この表示の欄は、「使用者が取扱いを誤った場合、軽傷を負う可能が想定される」また、「物的損害のみの発生が想定される」内容です。

絵文字の例

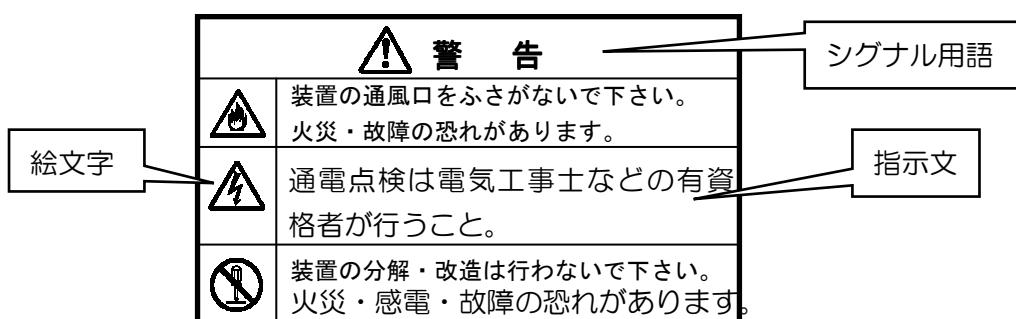


記号は警告や注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

警告表示例





警 告



- ・装置の通風口をふさぐ物が置かれていないか確認してください。
ふさがれると装置内部温度が上昇し、火災・故障の原因になります。



- ・装置の通電点検は、電気工事士などの有資格者が行ってください。
感電の恐れがあります。



- ・装置の分解、改造は行わないでください。
火災・感電・故障の恐れがあります。



注 意

1. 設置・取付けについて

- ・装置は屋内用です。屋外に設置しないでください。
屋外で使用すると、火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置は発熱します。必ず換気された場所に設置してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・直射日光・高温・多湿・塵埃・腐食性ガス・振動・衝撃等の環境は避けて設置してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置の設置・取り付けは、机の上など水平の面にゴム足が4箇所確実に接触するようにしてください。
装置を傾けたり、手に持ったり、移動しながらなど不安定な場所で使用しないでください。
装置の転倒や火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置の設置・取付時は、不安定な場所に設置しないでください。
装置の転倒や火災・感電・故障の原因になります。
- ・ACアダプタ、接続ケーブルは、メーカー指定の純正部品を使用してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、電源ケーブル、DMXケーブル等のケーブル類を繰り返し折り曲げたり、伸ばしたりしないでください。ケーブルの破損につながります。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、電源ケーブル、DMXケーブル等のケーブル類を無理に引っ張らないでください。
感電・故障の恐れがあります。
- ・接続ケーブル、ACアダプタ(DC IN 12V)、調光出力のケーブルを抜き挿しする前に
TOLSTARⅢ本体の主電源スイッチを切ってください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、電源ケーブル、DMXケーブル等のケーブル類は、コネクタに確実に接続してください。
接続ケーブルは必ず本体にねじ止めしてください。
コネクタがゆるんでいると火災・故障の原因になります。



注 意

- ・装置の移動は電源を切ってから行ってください。
火災・感電・故障の恐れがあります。
- ・装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の恐れがあります。
- ・装置に濡れた手で触れないでください。
感電の恐れがあります。
- ・遮断器がトリップした時は、必ず原因を取り除いてから再投入してください。
火災・感電・故障の恐れがあります。
- ・接続ケーブル、ACアダプタ (DC IN 12V)、調光出力のケーブルを抜き挿しする前に
TOLSTARⅢ本体の主電源スイッチを切ってください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・ACアダプタ本体は、安定した場所に設置してください。
火災・感電・故障の原因になります。

2. 使用前の準備について

- ・装置の使用前に必ず取扱説明書または注意書をお読みください。
お読みいただいた後は大切に保管し、必要なときに活用してください。
- ・装置の使用前の準備は、「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が行ってください。
未熟練者だけでの対応は、間違いの原因になるおそれがあります。
- ・装置の日常点検を実施してください。
点検の結果、取扱説明書に記載されている基準をはずれている場合は、取扱説明書に基づき処置をしてください。
- ・装置は発熱します。換気されているか確認してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・直射日光・高温・多湿・塵埃・腐食性ガス・振動・衝撃等がないか確認してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置の設置・取り付けが不安定な場所に設置されていないか確認してください。
装置の転倒や火災・感電・故障の原因になります。
- ・ACアダプタ、接続ケーブルは、メーカー指定の純正部品を使用してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、ACアダプタ (DC IN 12V)、調光出力のケーブルを抜き挿しする前に
TOLSTARⅢ本体の主電源スイッチを切ってください。
火災・感電・故障の原因になります。



注 意

- ・接続ケーブル、電源ケーブル、DMXケーブル等のケーブル類が無理に引っ張られないか点検してください。
感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、電源ケーブル、DMXケーブル等のケーブル類がコネクタに確実に接続されているか確認してください。接続ケーブルは必ず本体にねじ止めしてください。
コネクタがゆるんでいると火災・故障の原因になります。
- ・装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置に濡れた手で触れないでください。
感電のおそれがあります。
- ・操作卓の上に灰皿・飲食物等を置かれていらないか、確認してください。
感電・故障の原因になります。

3. 使用方法について

- ・装置を取り扱う場合は、「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が行ってください。
未熟練者だけでの対応は間違いの原因になります。
- ・装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置に濡れた手で触れないでください。
感電のおそれがあります。
- ・操作卓の上に灰皿・飲食物等を置かないでください。
感電・故障の原因になります。
- ・装置を傾けたり、手に持ったり、移動しながらなど不安定な場所で使用しないでください。
装置の転倒や火災・感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル等、ケーブル類を無理に引っ張らないでください。
感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、ACアダプタ(DC IN 12V)、調光出力のケーブルを抜き挿しする前に
TOLSTARⅢ本体の主電源スイッチを切ってください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・地震などの天災の後、再使用前に「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が点検を行ってください。
- ・塗装色、表示色は、同一製品内及びTOLSTARⅢシリーズの機器内であっても
違いが生じことがあります。
- ・フェーダのつまみは、消耗品です。経年変化により取れやすくなる場合があります。
つまみの交換につきましてはメーカーにお問い合わせください。



注 意

4. 保守点検について

- ・装置の日常点検を実施してください。点検の結果、取扱説明書に記載されている基準をはずしている場合は、取扱説明書に基づき処置をしてください。
- ・装置の点検（整備）は「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が行ってください。未熟練者だけでの対応は・火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置の点検・清掃時は、必ず電源を切ってください。
電源を切らないと感電するおそれがあります。
- ・ACアダプタ、接続ケーブルは、メーカー指定の純正部品を使用してください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・電源ケーブル、接続ケーブル、DMXケーブル等、ケーブル類を無理に引っ張らないでください。
感電・故障の原因になります。
- ・接続ケーブル、ACアダプタ（DC IN 12V）、調光出力のケーブルを抜き挿しする前に
TOLSTARⅢ本体の主電源スイッチを切ってください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置に強い衝撃を与えないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
- ・装置に濡れた手で触れないでください。
感電のおそれがあります。
- ・装置の安全で正常な動作を維持するため、定期的に製造業者、専門家の点検・調整を受けてください。
- ・交換部品は、メーカー指定の純正部品を使用し、取扱説明書に基づき確実に処置をしてください。
装置の火災・感電・故障の原因になります。

5. 異常時の対処について

- ・煙が出たり変な臭いがするなどの異常事態には、すぐに電源を切ってください。
火災・感電の原因になります。
- ・装置の異常と思われるときには、異常の原因を究明してください。
容易に原因の究明ができない場合は、メーカーに修理依頼をしてください。
- ・地震などの天災の後、再使用前に「舞台・テレビジョン技術者技能認定者」などの専門家が点検を行ってください。
未熟練者だけでの対応は、火災・感電・故障の原因になります。

6. 保管時について

- ・直射日光・高温・多湿・塵埃・腐食性ガス・振動・衝撃等の環境に保管しないでください。
故障・絶縁不良の原因となります。
- ・再使用するときは、点検を必ず行ってから使用してください。
火災・感電・故障の原因となるおそれがあります。

PFユニット の使い方

接続ケーブルをつなぐ



警 告

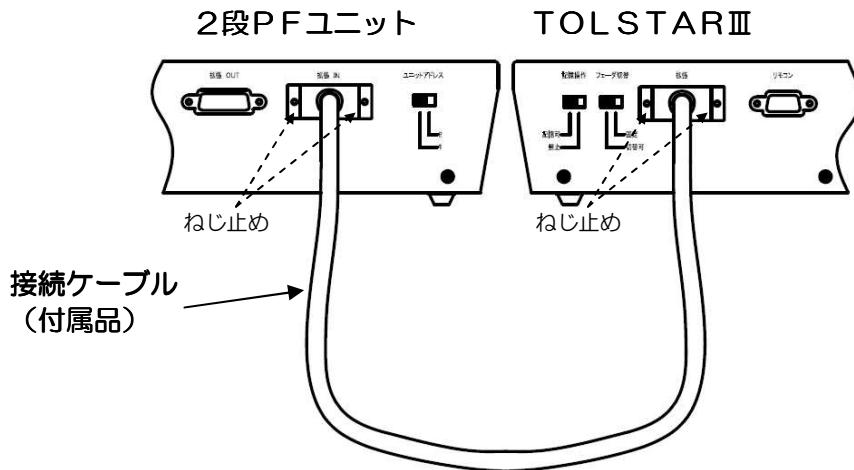


- 配線を接続するときは、TOLSTAR III本体の主電源をOFFし、電源ケーブルをコンセント（AC100V）につながないでください。
感電・故障の恐れがあります。

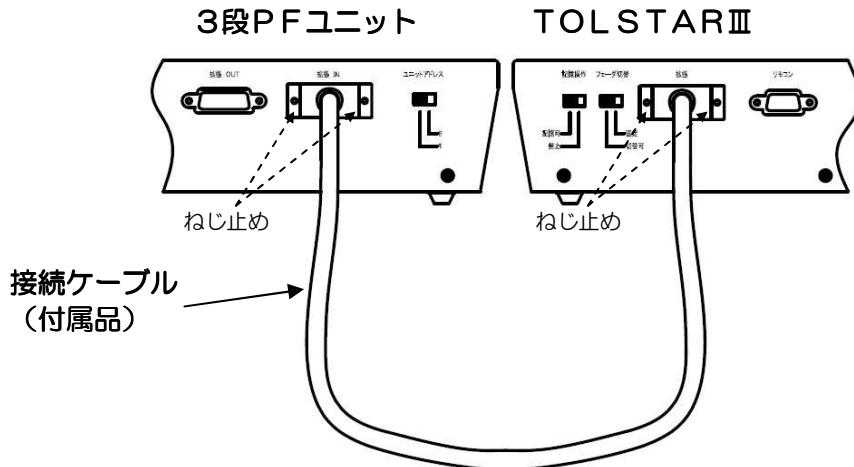
TOLSTAR IIIとPFユニットをつなぐ場合

TOLSTAR IIIの拡張コネクタとPFユニットの拡張INコネクタ間を接続ケーブルでつなぎます。
接続ケーブルは本体にねじ止めしてください。

2段PFユニット使用時



3段PFユニット使用時



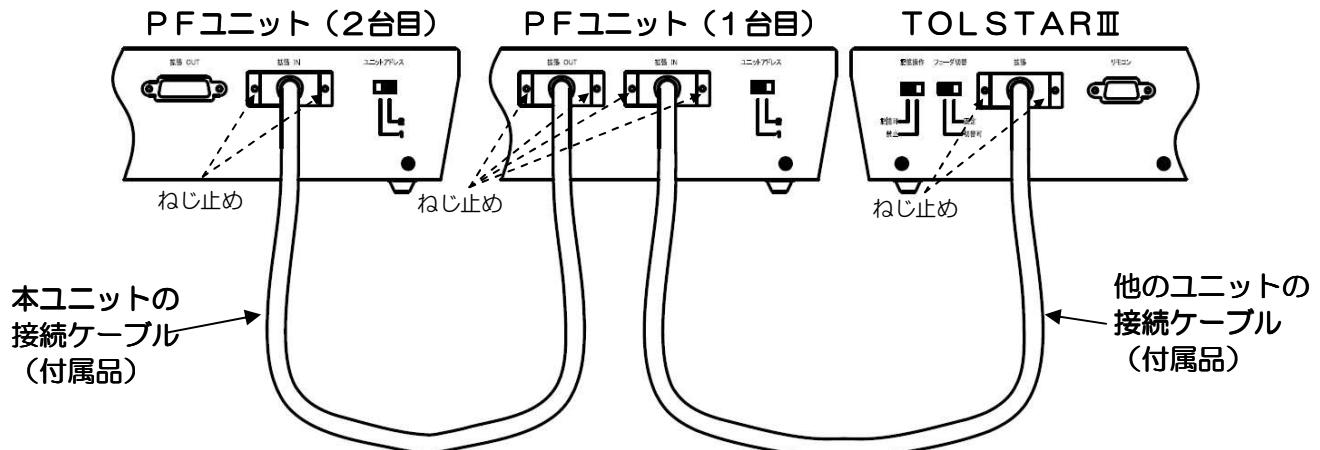
PFユニットを組み合わせてつなぐ場合

TOL STARⅢには、最大2台のPFユニットが接続できます。

PFユニットを2台接続して使用する場合、ユニットアドレスの設定が必要となります。

1台目のPFユニットはユニットアドレススイッチを【1】に、2台目のPFユニットは【2】に設定して下さい。

2段PFユニット使用時は、PF20×2又はPF30×2の組合せで接続して下さい。3段PFユニット使用時は、PF20×3又はPF30×3の組合せで接続して下さい。2段PFユニット(PF20×2、PF30×2)と3段PFユニット(PF20×3、PF30×3)は接続できません。



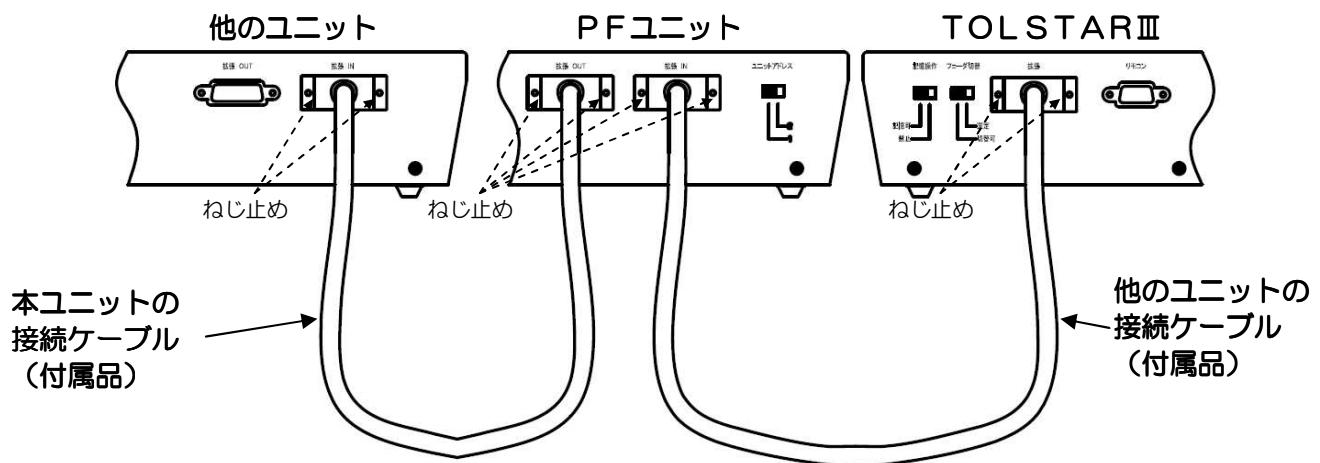
注意：ユニットアドレススイッチはTOL STARⅢの主電源がOFFの時に行ってください。

他のユニットとつなぐ場合

TOL STARⅢには、最大3台の拡張ユニットを接続できます。

最大構成は、PFユニット2台と客席調光ユニット1台です。

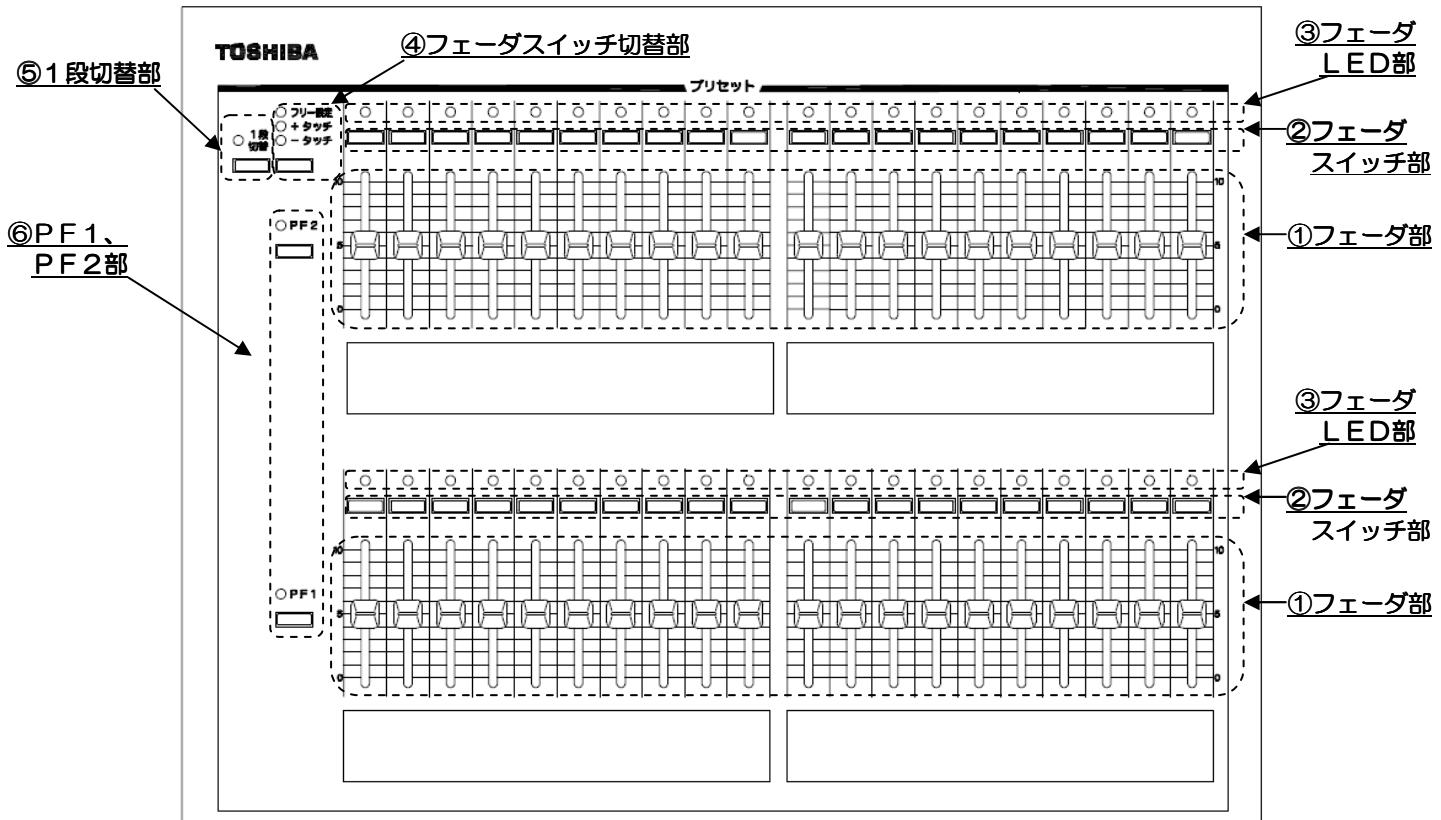
他のユニットとつなぐ場合は、つなぎ先又はつなぎ先のさらに先のユニットをTOL STARⅢとつなぐ必要があります。



各部の名称と使い方

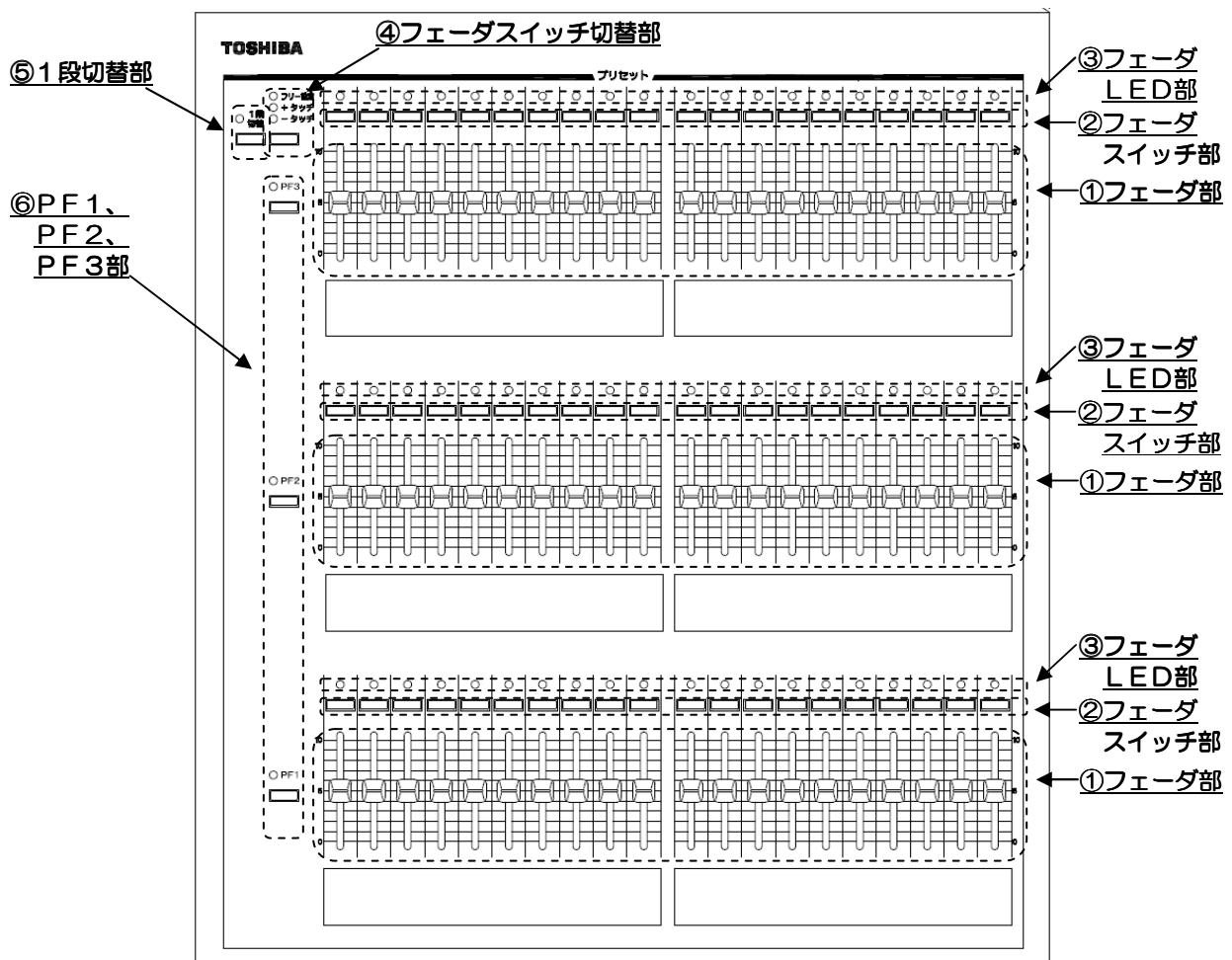
操作パネル (PF20×2、PF30×2)

- ① フェーダ部 各フェーダをプリセットフェーダ又はフリーフェーダとして使用します。
- ② フェーダスイッチ部 フリーフェーダの選択、選択解除、タッチ再生に使用します。
- ③ フェーダLED部 フェーダのレベル又は設定状態を表示します。
プリセットフェーダとして使用時は、チャンネルレベルを赤色表示します。（調光点灯）
フリーフェーダとして使用時は、緑点灯します。修正、パッチ設定時は、各種状態を表示します。
- ④ フェーダスイッチ切替部 フェーダスイッチのモードを切り替えます。
フリー設定時：フェーダスイッチにより各フェーダのフリー／プリセットを切り替えます。
フリーフェーダのフェーダLEDは緑点灯します。
+タッチ設定時：フェーダスイッチを+タッチ再生として使用します。
-タッチ設定時：フェーダスイッチを-タッチ再生として使用します。
設定無し時：フェーダスイッチは使用しません。押すと誤動作になります。
- ⑤ 1段切替部 フェーダの段数を切り替えます。 () 内は、PFユニット30×2
1段切替時 LED緑点灯：プリセットフェーダは40本×1段（60本×1段）となります。
設定無し時 LED消灯：プリセットフェーダは20本×2段（30本×2段）となります。
- ⑥ PF1、PF2部 ボタンは、修正操作を行うときの段の選択に使用します。
LED表示は、通常TOLSTARⅢ クロスフェーダのタリーLEDと連動します。
修正時は、修正に選択した段が橙点滅します。



操作パネル (PF20×3、PF30×3)

- ① フェーダ部 各フェーダをプリセットフェーダ又はフリーフェーダとして使用します。
- ② フェーダスイッチ部 フリーフェーダの選択、選択解除、タッチ再生に使用します。
- ③ フェーダLED部 フェーダのレベル又は設定状態を表示します。
プリセットフェーダとして使用時は、チャンネルレベルを赤色表示します。（調光点灯）
フリーフェーダとして使用時は、緑点灯します。修正、パッチ設定時は、各種状態を表示します。
- ④ フェーダスイッチ切替部 フェーダスイッチのモードを切り替えます。
フリー設定時：フェーダスイッチにより各フェーダのフリー／プリセットを切り替えます。
フリーフェーダのフェーダLEDは緑点灯します。
+タッチ設定時：フェーダスイッチを+タッチ再生として使用します。
-タッチ設定時：フェーダスイッチを-タッチ再生として使用します。
設定無し時：フェーダスイッチは使用しません。押すと誤動作になります。
- ⑤ 1段切替部 フェーダの段数を切り替えます。 () 内は、PFユニット30×3
1段切替時 LED緑点灯：プリセットフェーダは60本×1段（90本×1段）となります。
設定無し時 LED消灯：プリセットフェーダは20本×3段（30本×3段）となります。
- ⑥ PF1、PF2、PF3部 ボタンは、修正操作を行うときの段選択と、フェーダ再生を行うときの段選択に使用します。LED表示は、通常TOLSTARⅢ クロスフェーダのタリーエンジンと連動します。修正時は、修正に選択した段が橙点滅します。



背面パネル

① ユニットアドレススイッチ

PFユニットを1台使用する場合には、ユニットアドレスを【1】に設定します。

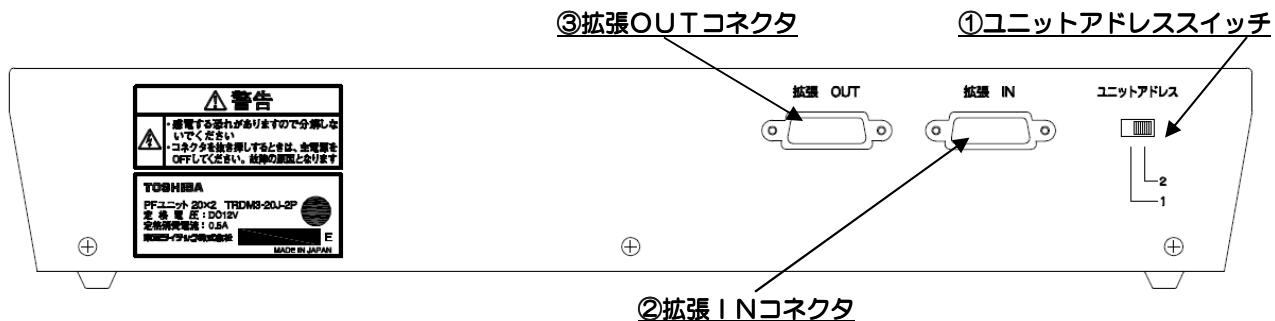
PFユニットを2台使用する場合は、2台目を【2】に設定します。

② 拡張INコネクタ

TOLSTARⅢの拡張コネクタ又は他の拡張ユニットの拡張OUTコネクタと付属の接続ケーブルでつなぎます。

③ 拡張OUTコネクタ

TOLSTARⅢと他のユニットを本ユニット経由でつなぐためのコネクタです。本ユニットが末端の場合には接続する必要はありません。



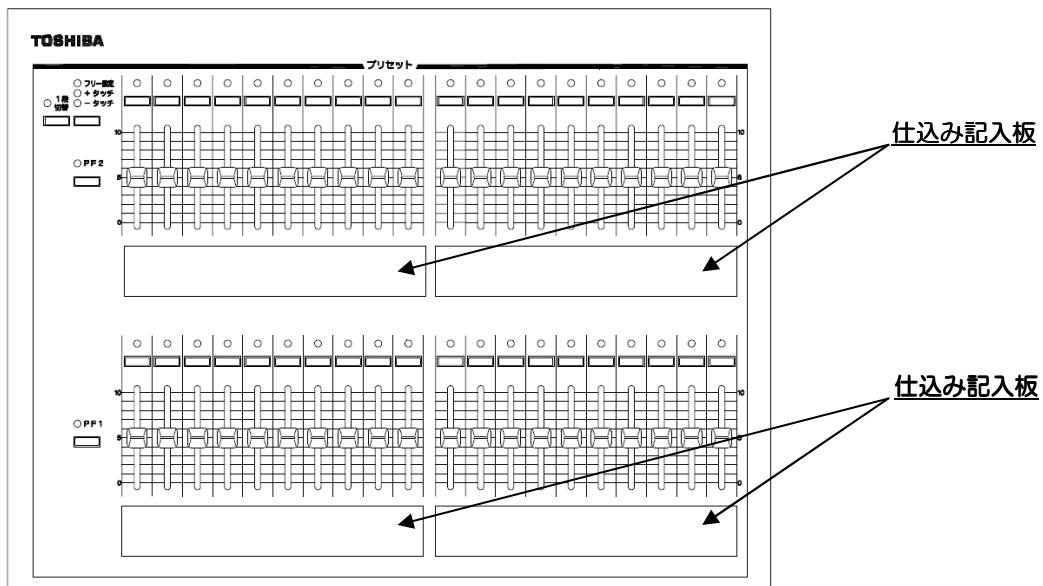
仕込み記入板

PFユニット20×2は4枚、PFユニット30×2は6枚、PFユニット20×3は6枚、PFユニット30×3は9枚の仕込み記入板を付属しています。

仕込み記入板は、磁力を帶びていますのでパネルに張り付きます。

仕込み記入板が汚れた場合には、消しゴムやアルコール塗布した布で汚れをふき取ってください。

(仕込み記入板以外の付属品の清掃にはアルコールを使用しないでください)



PFユニットの使い方

PFユニットは、TOLSTARⅢとつなぐことでプリセットフェーダの本数（チャンネル数）を増やすことができます。PFユニットは、最大2台まで増設することができます。

2段PFユニット使用時

例) PFユニット20×2とPFユニット30×2を各1台つなげた場合、

- ・プリセットフェーダ 120チャンネル
 - ・プリセットフェーダ 60チャンネル×2段
 - ・プリセットフェーダ 100チャンネルとサブマスタフェーダ 20本
 - ・プリセットフェーダ 50チャンネル×2段とサブマスタフェーダ 20本
- として使用できます。

3段PFユニット使用時

例) PFユニット20×3とPFユニット30×3を各1台つなげた場合、

- ・プリセットフェーダ 150チャンネル
 - ・プリセットフェーダ 50チャンネル×3段
- として使用できます。

PFユニットの取り扱い（パッチ、クロス再生、フリーフェーダ、修正）は、TOLSTARⅢのプリセットフェーダと同じです。操作方法については、TOLSTARⅢに付属している取扱説明書をご参照ください。

TOLSTARⅢの【フェーダ切替】について

2段PFユニットを接続した場合、「PF1/PF1」、「PF1/PF2」、「サブマスタ/サブマスタ」の設定で使用できます。「サブマスタ/PF1」には設定できません。

3段PFユニットを接続した場合、「サブマスタ/サブマスタ」の設定で使用できます。他の設定にはできません。

TOLSTARⅢの【フェーダ切替】設定

	上段/下段			
	PF1	PF2	サブマスタ	サブマスタ サブマスタ
2段PFユニット	○	○	×	○
3段PFユニット	×	×	×	○

○：設定可能

×：設定不可

1段切替について

PFユニットの【1段切替】及びTOLSTARⅢの【フェーダ切替】は、すべてのプリセットフェーダ及びサブマスタフェーダを0レベル（一番手前）にしてからおこなってください。切り換え時に灯りの急転を防ぐための保護です。設定が変わるフェーダが（例えば、PF1からサブマスタやPF1からPF2）0レベル以外の状態では、切り換え操作を無効にします。

TOLSTARⅢの【フェーダ切替】がサブマスタ設定時

PFユニットの【1段切替】ボタンはプリセットフェーダの段数を切り替えます。

TOLSTARⅢの【フェーダ切替】がプリセットフェーダ設定時（PF2段ユニット）

TOLSTARⅢの【フェーダ切替】とPFユニットの【1段切替】ボタンはプリセットフェーダの段数を切り替えます。動作も共通です。

フェーダスイッチ切替について

TOLSTARⅢの【フェーダ切替】がサブマスタ設定時

TOLSTARⅢの【フェーダスイッチ切替】ボタンは、サブマスタのタッチ再生の設定を切り替えます。PFユニットの【フェーダスイッチ切替】ボタンは、プリセットフェーダのフリー設定及びタッチ再生の設定を切り替えます。

TOLSTARⅢの【フェーダ切替】がプリセットフェーダ設定時（PF2段ユニット）

TOLSTARⅢの【フェーダスイッチ切替】ボタンとPFユニットの【フェーダスイッチ切替】ボタンは、プリセットフェーダのフリー設定及びタッチ再生の設定を切り替えます。動作も共通です。

2段PFユニットでサブマスタを使用する

2段PFユニットを接続してTOLSTARⅢでサブマスタを使用する場合、同時に操作再生できるプリセットフェーダの数が20本（1段展開時：20本、2段展開時：各段10本）減ります。

サブマスタに最大チャンネル数分の灯りを仕込む場合には、

手順1 TOLSTARⅢの【フェーダ切替】をサブマスタ以外（上下段「PF1」又は

上段「PF2」、下段「PF1」）の設定で灯りをつくる。

手順2 その灯りをシーンへ保存する。

手順3 TOLSTARⅢの【フェーダ切替】をサブマスタ（上下段「サブマスタ」）の設定にする。

手順4 シーン再生して、サブマスタに保存する。又はシーンをサブマスタにコピーする。

注意：サブマスタを修正する場合には、再度、サブマスタをシーンへコピーし、修正したのち、上記手順2～4をおこなってください。

3段PFユニットでプリセットフェーダの灯りを出す

TOLSTARⅢのクロスフェーダが

【PF-PFモード】の時：PF1～PF3を任意にクロスフェーダに割り付けることができます。

【シーン-PFモード】の時：右側のクロスフェーダにPF1が割りつけます。

【シーン-シーンモード】の時：プリセットフェーダの再生はできません

【PF-PFモード】で灯りを点灯する場合には、

(1) 左側クロスフェーダにPF1、PF2、PF3を割りつけて灯りを再生する。

手順1 TOLSTARⅢの【クロスモード切替】を押し、「PF-PF」を選択する

手順2 クロスフェーダを左右2本とも手前側（左側0%右側100%）にする。

左タリー 緑点灯

右タリー 赤点灯

手順3 クロスで再生する任意の段（PF1又はPF2又はPF3ボタン）を押す。

左側のクロスフェーダに選択したプリセットフェーダが割りつけます。

選択した段のLED表示 緑点灯

手順4 左側のクロスフェーダで選択したプリセットフェーダの灯りを出す。

(2) 右側クロスフェーダにPF1、PF2、PF3を割りつけて灯りを再生する。

手順1 TOLSTARⅢの【クロスモード切替】を押し、「PF-PF」を選択する

手順2 クロスフェーダを左右2本とも奥側（左側100%右側0%）にする。

左タリー 赤点灯

右タリー 緑点灯

手順3 クロスで再生する任意の段（PF1又はPF2又はPF3ボタン）を押す。

右側のクロスフェーダに選択したプリセットフェーダが割りつけます。

選択した段のLED表示 緑点灯

手順4 右側のクロスフェーダで選択したプリセットフェーダの灯りを出す。

フェーダ切替とチャンネル割り付け

PFユニットのフェーダとチャンネルの関係は、TOLSTARⅢの【フェーダ切替】とPFユニットの【1段切替】のボタン操作により切り替えます。

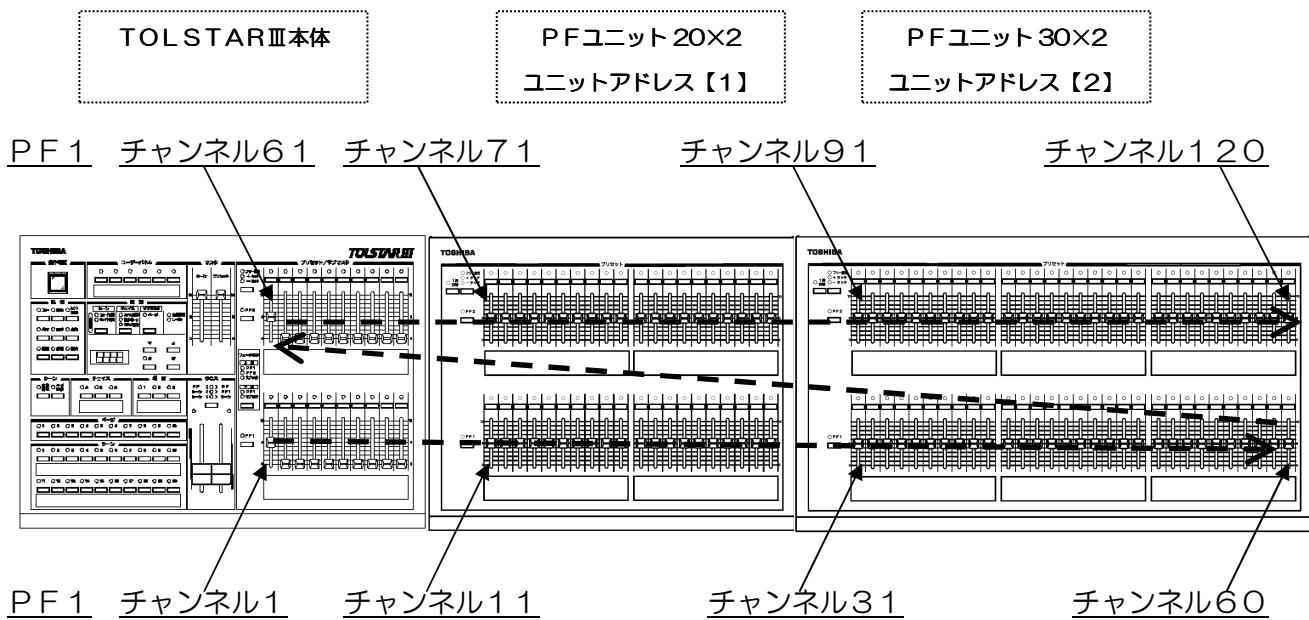
PF2段ユニットの場合（例：PFユニット 20×2と30×2の組み合わせ）

(1) TOLSTARⅢ フェーダ切替が上段「PF1」、下段「PF1」の時

120本×1段（PF1）のプリセットフェーダとなります。

下段左端がチャンネル1→下段右端→ 上段左端 → 上段右端 の順に割り付きます。

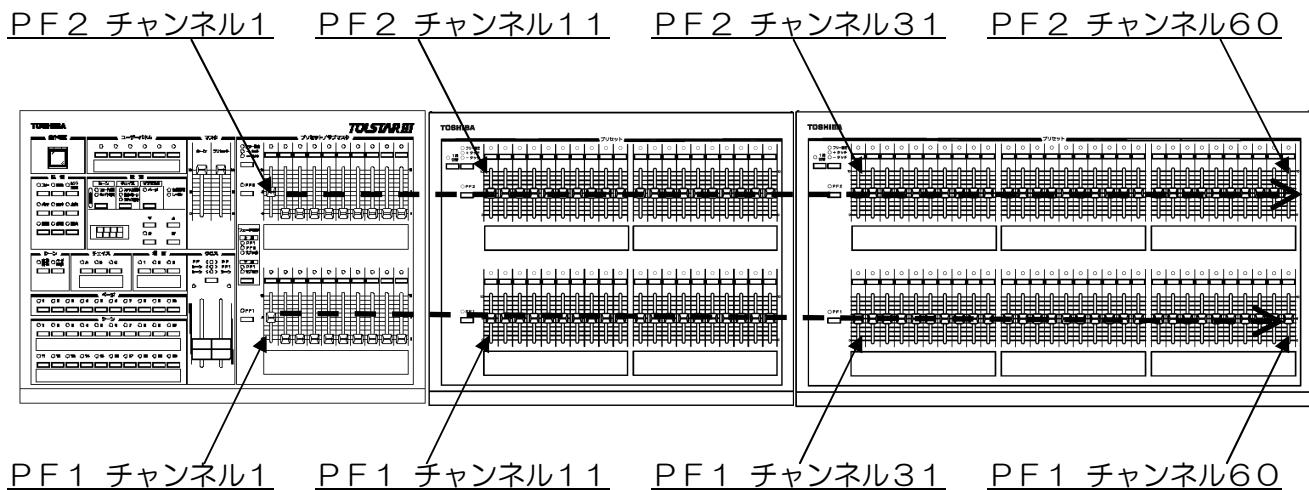
このとき、PFユニットの【1段切替】LEDは点灯しています。



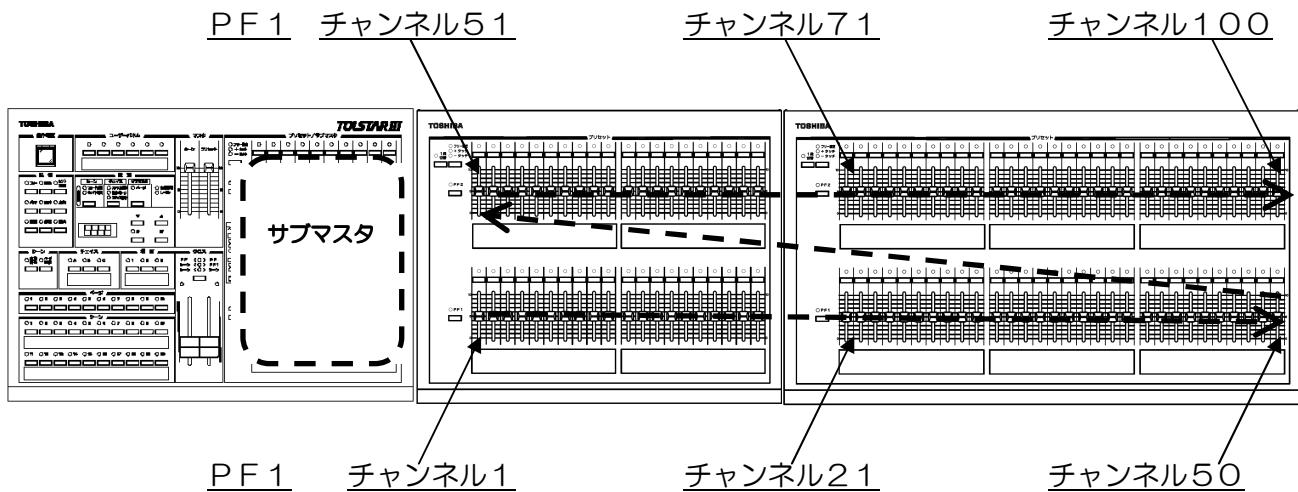
(2) TOLSTARⅢ フェーダ切替が上段「PF2」、下段「PF1」の時

60本×2段（上段PF1、下段PF2）のプリセットフェーダになります。

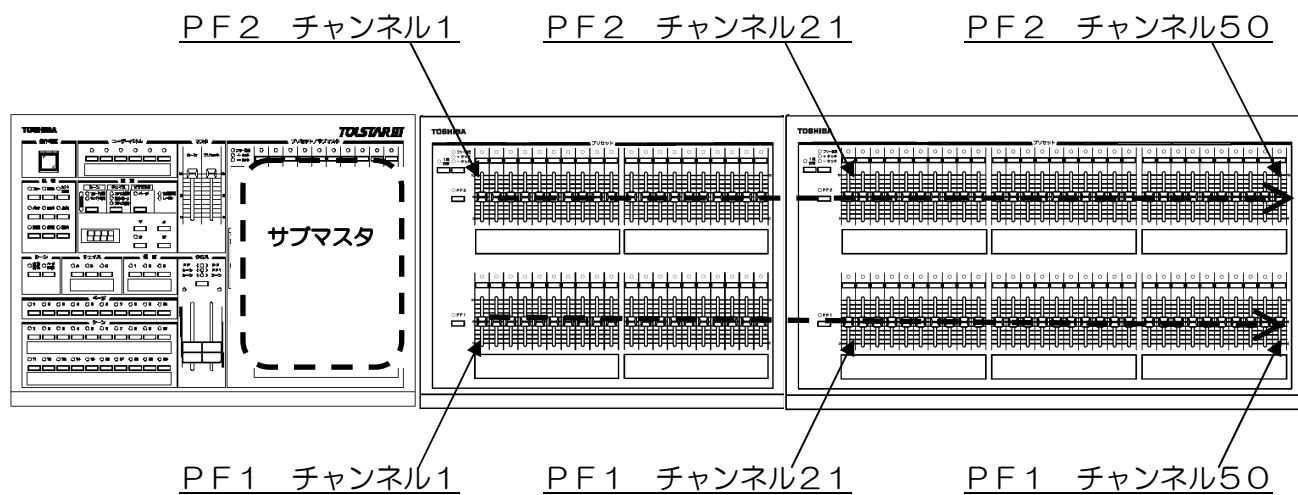
このとき、PFユニットの【1段切替】LEDは消灯しています。



- (3) TOLSTARⅢ 【フェーダ切替】が上段「サブマスタ」、下段「サブマスタ」の時
 かつ、PFユニット【1段切替】が1段（LED点灯）の時
20本のサブマスタ と 100本×1段（PF1）のプリセットフェーダになります。



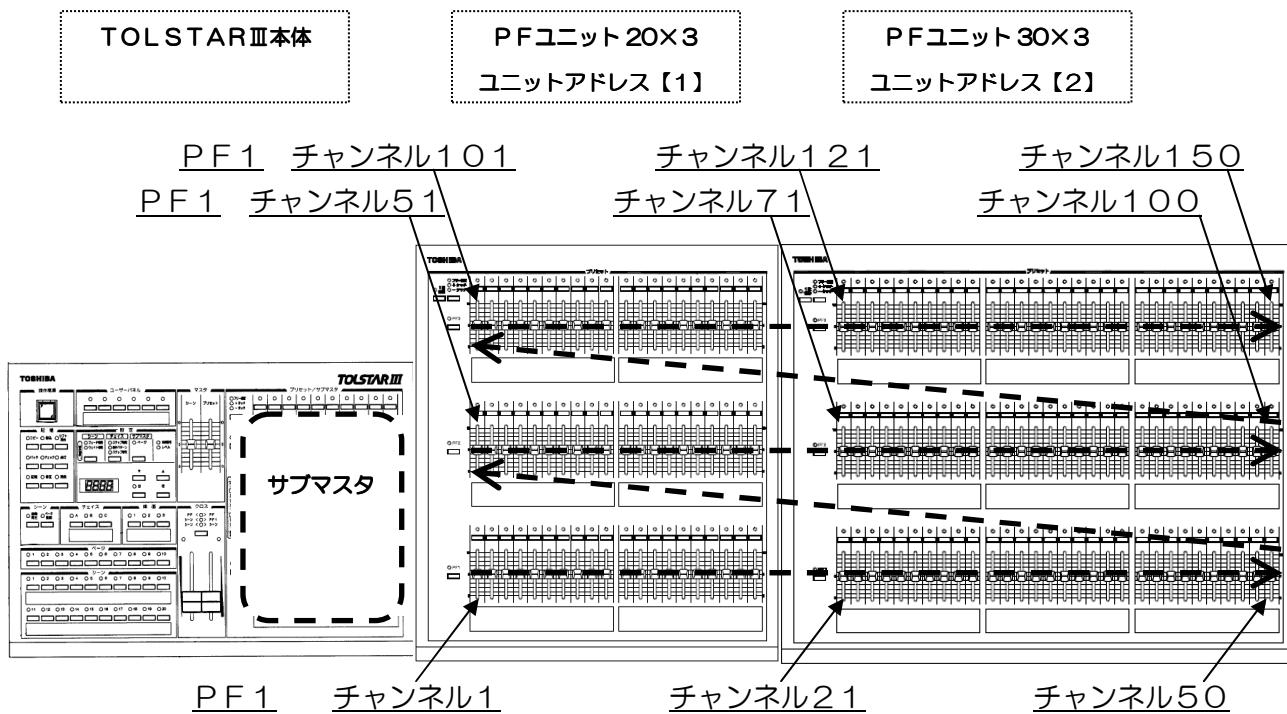
- (4) TOLSTARⅢ 【フェーダ切替】が上段「サブマスタ」、下段「サブマスタ」の時
 かつ、PFユニット【1段切替】が設定無し（LED消灯）の時
20本のサブマスタ と 50本×2段のプリセットフェーダになります。



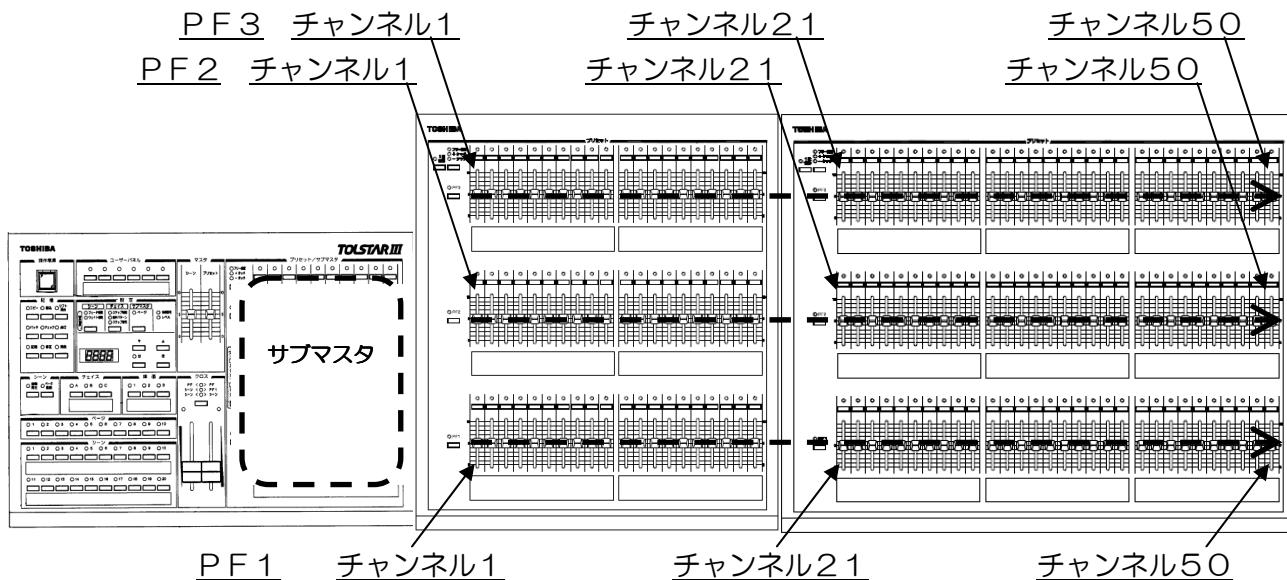
PF3段ユニットの場合（例：PFユニット20×3と30×3の組み合わせ）

注意：PF3段ユニット接続時、TOLSTARⅢのフェーダはサブマスタ固定となります。

- (1) TOLSTARⅢ 【フェーダ切替】が上段「サブマスタ」、下段「サブマスタ」の時
かつ、PFユニット【1段切替】が1段（LED点灯）の時
20本のサブマスタと150本×1段（PF1）のプリセットフェーダになります。



- (2) TOLSTARⅢ 【フェーダ切替】が上段「サブマスタ」、下段「サブマスタ」の時
かつ、PFユニット【1段切替】が設定なし（LED消灯）の時
20本のサブマスタと50本×3段のプリセットでフェーダになります。



点検、仕様 について

故障かなと思ったら

・PFユニットが動かない

確認1 TOLSTARⅢの主電源はONしていますか。

⇒ 主電源をONしてください。

確認2 TOLSTARⅢの操作電源のLEDは点灯していますか。

⇒ 操作電源をONしてください。

確認3 接続ケーブルは、正しくつながっていますか。

⇒ 接続ケーブルをつなぐ(→P10)を参照して正しくつないでください。

確認4 ユニットアドレススイッチの設定は正しいですか。

⇒ ユニットアドレススイッチを正しく設定してください。(→P8)を参照

・プリセットフェーダで灯りがでない

確認1 TOLSTARⅢの操作電源のLEDは点灯していますか。

⇒ 操作電源をONしてください。

確認2 TOLSTARⅢに調光出力コネクタにケーブルは差さっていますか

⇒ DMX規格のケーブルで本体と調光装置を接続してください。

確認3 パッチはされていますか

⇒ フェーダに負荷をパッチしてください

確認4 TOLSTARⅢの場面は正しいですか

⇒ 使用する場面を選択してください

確認5 TOLSTARⅢのプリセットマスタが0% (一番手前)になつていませんか

⇒ プリセットマスタを上げてください

確認6 TOLSTARⅢのプリセットフェーダを割り付けたクロスフェーダが0%になつていませんか、又はタリーLEDが点滅していませんか

⇒ クロスフェーダを操作してください

確認7 TOLSTARⅢのクロスフェーダのモードは正しいですか

⇒ クロスフェーダのモードを「PF-PF」または「シーン-PF1」に設定して、クロスフェーダを動かしてください。

・パッチができない

確認1 TOLSTARⅢ 場面がデフォルト場面になつていませんか。

(場面 1, 2, 3 LEDが消灯)

⇒ 場面1~3を選択してください

確認2 TOLSTARⅢ 背面パネルの記憶操作スイッチが「禁止」になつていませんか

⇒ 記憶操作スイッチを「記憶可」に設定してください。

・プリセットフェーダがフリー設定にできない

確認1 TOLSTARⅢ 背面パネルの記憶操作スイッチが「禁止」になつていませんか

⇒ 記憶操作スイッチを「記憶可」に設定してください。

・フェーダ切替ができない

確認1 TOLSTARⅢ 背面パネルのフェーダ切替スイッチが「**固定**」になっていませんか

⇒ フェーダ切替スイッチを「**切替可**」に設定してください。

確認2 設定が変わるフェーダがすべて0%（手前側）になっていますか

⇒ すべて0%にしてください。

・ブザー音（ボタン音）がしない

確認1 ブザー音がしない設定になっていませんか

⇒ ブザー音を設定してください。

日常点検

日常点検

TOL STAR IIIを安全にご使用いただくために日常点検をおこなってください。

確認部位	確認内容	処置
接続ケーブル	各ユニットと接続ケーブルが確実に接続されているか コネクタ固定ネジに緩みはないか	コンセントから電源ケーブルを抜いた後、接続、ねじ止めしてください
接続ケーブル	接続ケーブルに変形、亀裂がないか	交換をお勧めします お買い上げ販売店（工事店）へご相談ください
ユニット本体	LED、ボタン、スイッチに破損はないか 動作に異常はないか	
背面コネクタ	コネクタにガタつきはないか	
PFユニット本体 接続ケーブル	汚れていないか	清掃してください

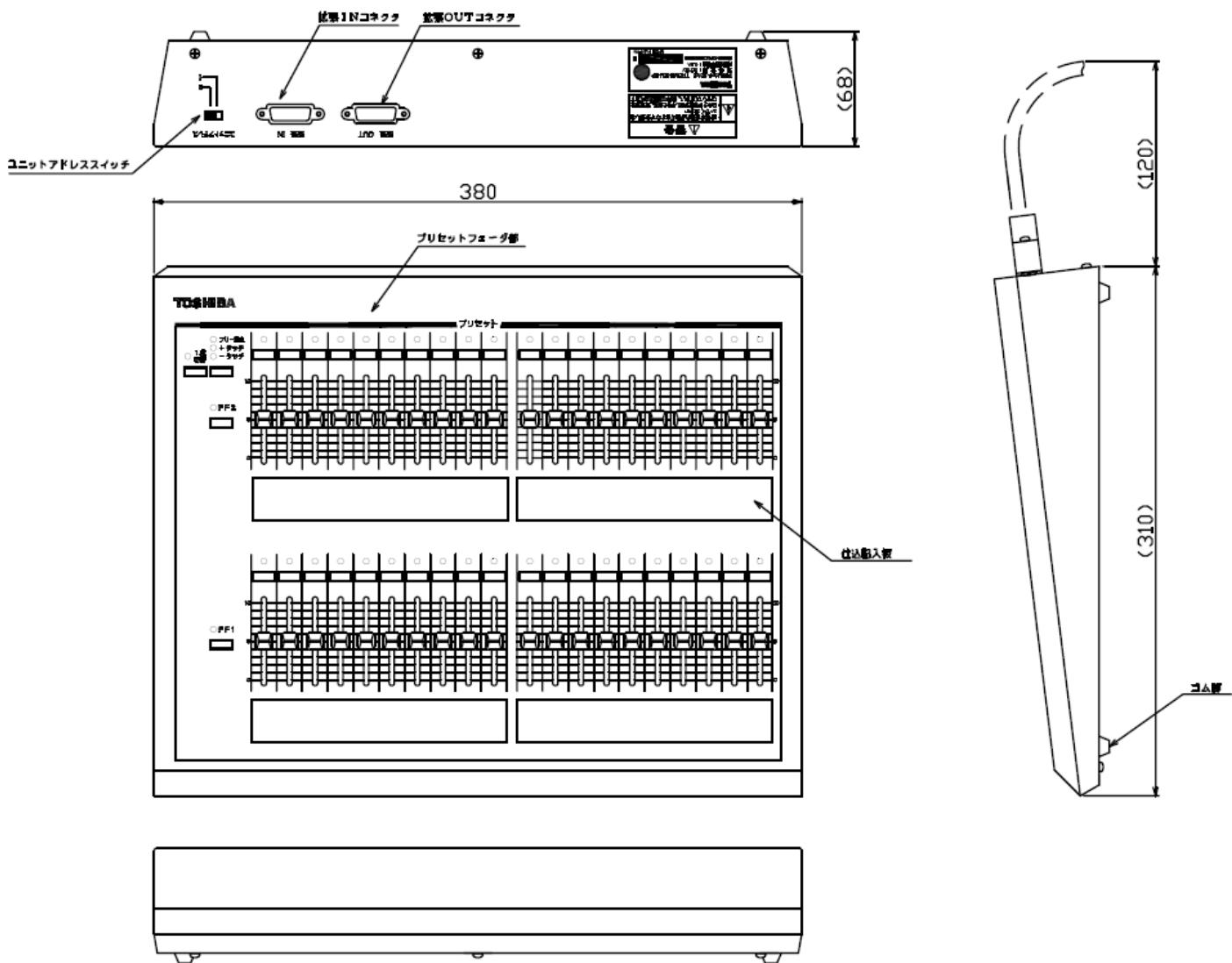
定期点検のお勧め

使用期間における経年変化またはご使用の状況によって、消耗、劣化する部品または絶縁の低下が懸念されます。専門技術者による定期点検をお勧めします。

定期点検は弊社との保守点検契約をお勧めします。

概略仕様

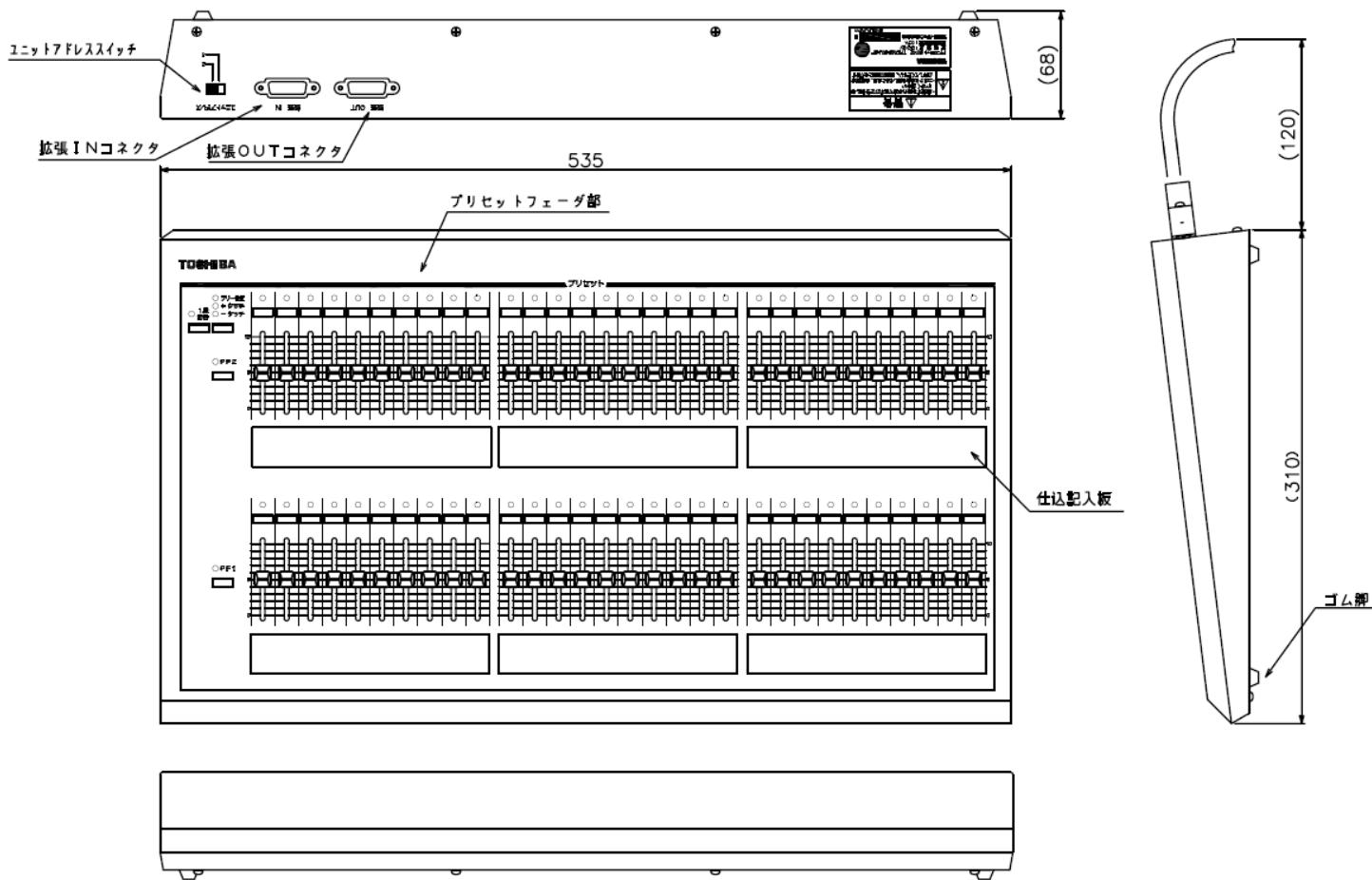
PFユニット 20×2 型式：TRDM3-20J-2P



基本仕様

型名	TRDM3-20J-2P	プリセットフェーダ	40本×1段／20本×2段を切り換え TOLSTARⅢに上記本数のフェーダを追加
本体質量 (kg)	4.0kg (接続ケーブル含まず)		
本体入力電源	DC12V±10%	タッチ再生	+タッチ、-タッチ再生
	(TOLSTARⅢ本体から接続ケーブルにより供給)	フリーフェーダ	プリセットフェーダをフリーフェーダに切り換え
消費電流	(DC12V) 0.5A以下	付属品	接続ケーブル (90cm) 仕込記入板一式
動作環境	屋内、結露しないこと		
周囲温度	0~40°C		

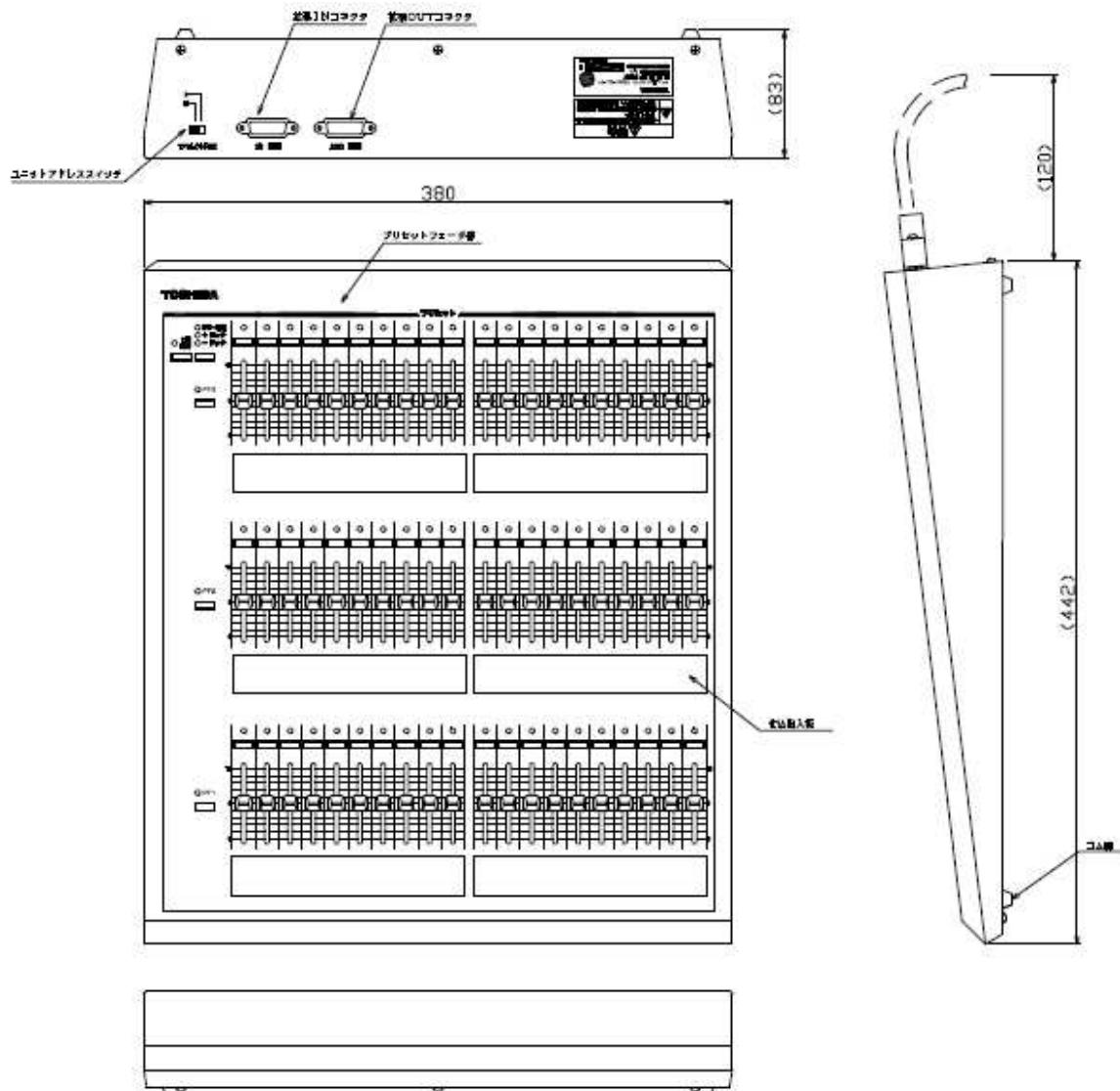
PFユニット 30×2 型式：TRDM3-30J-2P



基本仕様

型名	TRDM3-30J-2P	プリセットフェーダ	60本×1段/20本×2段を切り換え TOLSTARⅢに上記本数のフェーダを追加
本体質量 (kg)	5.5kg (接続ケーブル含まず)		
本体入力電源	DC 12V±10% (TOLSTARⅢ本体から接続ケーブルにより供給)	タッチ再生 フリーフェーダ	＋タッチ、－タッチ再生 プリセットフェーダをフリーフェーダに切り換え
消費電流	(DC 12V) 0.7A以下	付属品	接続ケーブル (90cm) 仕込み入板一式
動作環境	屋内、結露しないこと		
周囲温度	0~40°C		

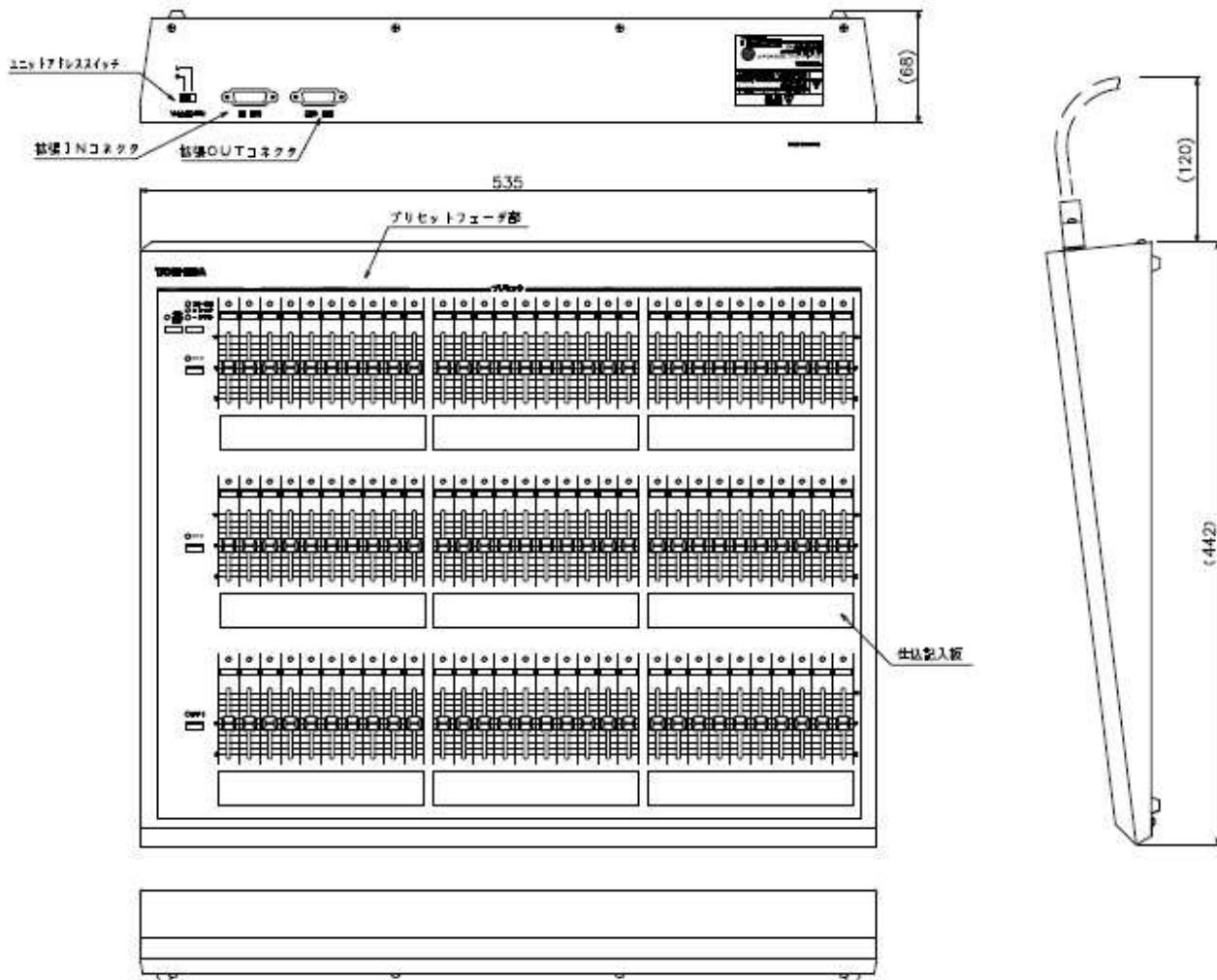
PFユニット 20×3 型式：TRDM3-20J-3P



基本仕様

型名	TRDM3-20J-3P	プリセットフェーダ	60本×1段／20本×3段を切り換え TOLSTARⅢに上記本数のフェーダを追加
本体質量 (kg)	6.0kg (接続ケーブル含まず)		
本体入力電源	DC 12V±10%	タッチ再生	＋タッチ、－タッチ再生
	(TOLSTARⅢ本体から接続ケーブルにより供給)	フリーフェーダ	プリセットフェーダをフリーフェーダに切り換え
消費電流	(DC 12V) 0.7A以下	付属品	接続ケーブル (120cm) 仕込み入板一式
動作環境	屋内、結露しないこと		
周囲温度	0~40°C		

PFユニット 30×3 型式：TRDM3-30J-3P



基本仕様

型名	TRDM3-30J-3P	プリセットフェーダ	90本×1段/30本×3段を切り換え TOLSTARⅢに上記本数のフェーダを追加
本体質量 (kg)	8.0kg (接続ケーブル含まず)		
本体入力電源	DC12V±10% (TOLSTARⅢ本体から接続ケーブルにより供給)	タッチ再生 フリーフェーダ	タッチ、タッチ再生 プリセットフェーダをフリーフェーダに切り換え
消費電流	(DC12V) 1.0A以下	付属品	接続ケーブル (120cm)
動作環境	屋内、結露しないこと		仕込記入板一式
周囲温度	0~40°C		

保証について

- ・保証期間は、商品お買上げ日より1年間です。但し、LED器具の点灯装置は3年間です。取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合に、無償修理させていただきます。
- ・ランプ、点灯管、電池などの消耗品は対象外です。

※保証の例外

24時間連続使用など、1日20時間以上の長時間使用の場合は、上記の半分の期間とします。

保証の免責事項

1. 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
 - (1) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
 - (2) お買上げ後の取り付け場所移設、輸送、落下などによる故障及び損傷
 - (3) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷
 - (4) 車両、船舶等に搭載された場合に生じる故障及び損傷
 - (5) 施工上の不備に起因する故障や不具合
 - (6) 法令、取扱説明書で要求される保守点検を行わぬことによる故障及び損傷
 - (7) 日本国内以外での使用による故障及び損傷
2. 離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合には出張に要する実費を申し受けます。

修理を依頼されるとき

- ・保証期間中は、お買上げ日を特定できるものを添えてお買上げ販売店（工事店）までお申し出ください。
 - ・保証期間を過ぎている時は、お買上げ販売店（工事店）にご相談ください。
- 修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。
- ・アフターサービスについてご不明な点並びに修理に関するご相談は、お買上げ販売店（工事店）にお問い合わせください。その際は器具の形名、お買上げ時期をお忘れなくお知らせください。

日本国内専用
Use only in Japan

東芝ライテック株式会社 <https://www.tlt.co.jp>

北海道 地区 (首都圏 営業所)	〒063-0814 北海道札幌市西区琴似4条2-1-2 コルテナII	TEL.011-624-1181	FAX.011-615-3168
東北 営業所	〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町2-2-2 東芝仙台ビル	TEL.022-264-7261	FAX.022-263-7660
首都圏 営業所	〒212-8585 神奈川県川崎市幸区堀川町72-34 ラゾーナ川崎東芝ビル	TEL.050-3148-9825	FAX.044-548-9638
中部 営業所	〒451-0064 愛知県名古屋市西区名西2-33-10 名西二丁目ビル	TEL.050-3191-3163	FAX.052-528-1545
関西 営業所	〒530-0017 大阪府大阪市北区角田町8番1号 大阪梅田ツインタワーズ・ノース	TEL.050-3147-0843	FAX.06-6130-1169
中国 営業所	〒730-0017 広島県広島市中区鉄砲町7-18 東芝フコク生命ビル	TEL.050-3164-9903	FAX.082-212-1249
九州 営業所	〒810-0072 福岡県福岡市中央区長浜2-4-1 東芝福岡ビル	TEL.050-3191-7172	FAX.092-735-3446

営業所名・住所・電話番号などは変更になる場合があります。
最新情報は右記QRコードより弊社ホームページをご確認ください。



お読みになったあとも必ず保存してください。

233249E